

2020年度 入学試験問題

帰国生入試

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は30分間です。
3. 問題は□～□までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、ここまで読んでこられた皆さんには、「他者」や「距離感」について少し頭の中で整理して考えてもらえるようになったでしょうか。

A、また次のステップに進むために、実践的なキーワードを提示したいと思います。それは、「ルール関係」と「^①フイーリング共有関係」というものです。

対面的状況、組織、集団といったいろいろな単位の間人間関係を考えるときに、「ルール関係」と、「フイーリング共有関係」に分けて考えると、お互いどういふ距離をとれば心地よいか、考えやすくなると思います。

「ルール関係」というのは、他者と共存していくときに、お互いに最低守らなければならないルールを基本に成立する関係です。じつは学校もクラスも、むしろそういうルール関係を基本に考えなければならない場になっているのだと思います。

さきに述べた、共同体的なつながりが強いときの「^②友達百人でできるかな」的な関係が前提としているのは、「フイーリング共有関係」なのです。とにかくフイーリングを一緒にして、同じようなノリで同じように頑張ろうと。それがクラス運営の核になっていたのが、これまでの学級や学校の考え方でした。「僕たちは同じように考えているし、同じ価値観を共有して、同じことで泣いたり笑ったりする、結びつきの強い全体だよ」という感じですよ。

B いまの学校という場合は、もうそうしたフイーリング共有性だけに頼るわけにはいかない。「ルール関係」をきちんと打ち立ててちゃんとお互いを守るべき範囲を定めて、「こういうことをやってはいけないんだ」という形で、現実社会と同じように^③ルールの共有によって、関係を成

立させなければならぬ場になっているのだと思います。

いじめという行為は、人と人との関係の基本に照らしてみても明らかにルール違反なわけです。ですから、ルールに反することはしてはいけないということ徹底していく、つまり「ルール関係」をベースにして、先生は^{注2}裁定を下していかなくてはなりません。ここに「みんな仲良く」という「フイーリング共有関係」だけをもち込んでもうまくいかなのです。いじめを受けている人は、一人で悩んでいないで、もし仮にクラス担任の先生がだめでも、ルールを基準に判断してあなたの立場を理解してくれる大人はどこかに必ずいるはずですよ。決して絶望しないでください。

ルール関係の土台が築けている上で、「フイーリング共有関係」も得られるのであれば、これはラッキーで幸せなことですよ。逆にいえば学校はもはや、フイーリング共有関係がそうたやすく実現できる場ではなくなくなってきたのだということです。

これは後ろ向きで、悲観的な考え方なのでは決してありません。むしろ逆です。第3章で述べた、「みんな仲良くしなければならぬ」という共同性の^{注3}呪縛のような考え方は、「フイーリング共有関係」だけを前提に考えるからそうなるのです。実際は自分とは合わない人たちがいるのに「みんなと仲良くしなければ」と思い込みすぎて、かえって苦しくなるのです。「ルール関係」を前提に考えれば、仲が良くても仲が良くなくても、とりあえずお互いが平和に共存することができるのです。

そんなふうには^④発想を転換していくべきだと思います。

たとえば仕事場などに、「フイーリング共有関係」だけ持ち込んでもダメなことは明白ですね。やはり仕事場というのは何か業績を上げるための目的集団ですし、そこには組織ごとのルールがあります。そういうル

ールにのっとってコミュニケーションがなされています。でもルールが共有されているだけの関係ではなんとなくギスギスしてしまって、仕事の能率も上がらない。

そのための工夫ももちろんいろいろあっていいのだけれども、基本的にはルール共有関係が成立しないところにフィードバック共有性だけを求めても、土台無理な話だと思います。

この二つは重なるようだけれども、原理的には区別して考えなくてはなりません。これをこった煮のように一緒に考えてしまうと、ぐちゃぐちゃになってしまうのです。

どんなに気の合わない部下や上司でも、ある程度は距離感をもって、上司である限り部下である限りは関わらなければならぬし、お互い一緒に仕事をしていかなければならないわけです。それを「あいつはなんとなく気に入らないからあいつにだけは仕事をまわさない」とか「あいつと同じ部署にいるのはいやだ」となってしまうと、ぐちゃぐちゃになってしまうわけです。フィードバック共有関係というのは、プラスだけではなくてマイナスの感情も含まれてきますから。

「ルール関係」と「フィードバック共有関係」を区別して考え、使い分けができるようになること。これが、「大人になる」ということにとっての、一つの大切な課題だと思います。

高校生くらいから少しずつこの二つの違いを意識しながら、二十歳を過ぎるくらいからは「いま・ここ」でのつながりはどちらの関係をより優先すべきなのだろう」といったことが、状況に応じて判断できるようになれば、より大人に近づいたといえるのではないのでしょうか。

「ルールが大切だ」ということを述べると、必ずある角度のついた解釈しやくをされてしまいます。つまり、「注4リ倫理的にコントロールする」

「注5 規範的価値観を共有させる」など、「管理の強化」みたいな方向に誤解されるのです。規範意識を高めるといった表現で言い換えられると、妙みょうに道徳的な行儀ぎの良い子どもを育てようといった主張のように理解されることもあるかもしれません。

ルールを大切に考えるといふ発想は、規則を増やしたり、自由の幅はばを少なくする方向にどうしても考えられてしまうのですが、^⑥私が言いたいことはそういうことではありません。むしろ全く逆なのです。

ルールというものは、できるだけ多くの人にできるだけ多くの自由を保障するために必要なものなのです。

なるべく多くの人が、最大限の自由を得られる目的で設定されるのがルールです。ルールというのは、「これさえ守ればあとは自由」というように、「自由」とワンセットになっているのです。

逆にいえば、自由はルールがないところでは成立しません。

「何でも好き勝手にやればいい」ということが自由だとしたら、無茶苦茶なことになってしまいます。人間というものは総じて自分の利益を最優先する傾向けいがあるわけですが、「自分の利益のことしか考えない力の強い人」が一人いたら、複数の人間からなる社会における自由はもうアウトになります。この場合、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということになりかねません。ルールの共有性があるからこそ、自由というものが成り立つのです。

【菅野仁『友だち幻想』】

- 注1 フォーリング：なんとなく受ける感じや感覚。
 注2 裁定：物事の理非・善悪をさばいて決めること。
 注3 呪縛：心理的に人の自由を奪うこと。
 注4 倫理：善悪等の判断において規準となるもの。
 注5 規範：人間の社会集団におけるルールや慣習。

- 問一 A・B に当てはまる言葉を、次のア～オからそれぞれ選びなさい。(同じ記号は二度使用しないこと)
- ア そして イ だから ウ でも
 エ なぜなら オ それでは
- 問二 ——— 線① 「フォーリング共有関係」とはどういう関係ですか。当てはまらないものを、次のア～エから選びなさい。
- ア メンバーの一人一人が同じように考え、同じことを大切にしている関係。
 イ 同じようなノリで同じように頑張り、失敗した人を許さない関係。
 ウ 同じことで泣いたり笑ったりして、感覚の一致を求める関係。
 エ 結びつきの強さをクラス運営の核とするような関係。
- 問三 ——— 線② 「友達百人できるかな」とは、どのようなことをたてた表現ですか。具体的に説明している部分を本文中から十五字でぬき出さない。
- 問四 ——— 線③ 「ルールの共有によって、関係を成立させなければならぬ場」の現代社会における例として「学校」以外にあげているものを本文中から五字以内でぬき出さない。
- 問五 ——— 線④ 「発想を転換していくべきだと思えます」とありますが、筆者は学校のあり方をどのように転換していくべきだと考えていますか。五十字以内で説明しなさい。
- 問六 ——— 線⑤ 「ある角度のついた解釈」の説明として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。
- ア 「管理の強化」をゆるめた方がよいという解釈。
 イ 規則を増やし、自由の幅を少なくするという解釈。
 ウ ルールが共有されるだけではギスギスするという解釈。
 エ 行儀のよい子どもを育てるのは形式的だという解釈。

問七 線⑥「私が言いたいこと」とありますが、これを説明した

次の文章の 1 2 3 に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ指定の字数でぬき出しなさい。

* ルールは、 1 (二十五字) ものであり、ルールを守れば多くの人が、 2 (六字) を手にすることができる。だからルールは、 3 (十字) だということがいえる。

問八 次の文は本文のどこに入りますか。直前の文の最後の五字をぬき出さない。(句読点も一字にふくみます)

* フィーリングの共有性が高まったほうが、組織としても活性化します。

問九 本文の内容として正しくないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 実際は自分とは合わない人たちがいて苦しくなっている人がいることを考えると、学校はもはや、「フィーリング共有関係」がたやすく実現できる場ではない。

イ 「ルール関係」を前提に考えれば、仲が良くても仲が良くななくても、とりあえずお互いが平和に共存することができる。

ウ 高校生ぐらいから「ルール関係」の土台を築き、「フィーリング共有関係」も得られるようにすると、大人に近づいたといえる。

エ 「何でも好き勝手にやればいい」ということが自由だとしたら、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということが起こりかねない。

二 次の①～⑩の——線のカタカナを漢字に直しなさい。(送り仮名が必要な場合は送り仮名を平仮名で書くこと)

- ① 鳥がナク。
② 幼虫を川にハナツ。
③ 花を新聞でツツム。
④ ギカイが始まる。
⑤ ザツシを読む。
⑥ サイエンを耕す。
⑦ 状況をホウコクする。
⑧ 機械をテイシする。
⑨ カンダンの差が激しい。
⑩ シンゾクを大切にす。

三 次の①～⑤の□に当てはまる漢字を入れ、熟語を完成させなさい。また、——線の熟語の成り立ちとして最も適当なものを、後のア～エからそれぞれ選びなさい。

- ① 津波で□水面が上昇する。
② 取□選択してください。
③ 犯人が罪を否□している。
④ スクリーンに名作を映□する。
⑤ 大地震で□地がひっくり返りそうになる。

- ア 同じような意味の漢字を重ねたもの
イ 反対の意味を表す字を重ねたもの
ウ 上の字が下の字を修飾しているもの
エ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの